

調査報告書

- 1 とき：2012年7月13日
 - 2 行先：立命館大学国際平和ミュージアム
 - 3 参加者：山口清明、さはしあこ、政務調査補助員（浜田）
 - 4 主な内容
 - 名古屋には博物館に指定された「ピースあいち」があるが、名古屋市は法人税免除の許可を出していない。
 - 館長が免税申請すると「南京事件の展示物があるから駄目」と門前払いだった。
 - 市と県の共同設立予定の戦争平和資料館は財政難が理由で未だ設立されていないが、政策づくりの参考に各地の平和博物館を視察調査したい。
 - 今回は立命館平和ミュージアムを視察した。
 - 1989年に設立され、理念は「平和創造の面において大学が果たすべき社会的責任を自覚し、平和創造の主体をはぐくむ」で、4900校以上の小中学校の平和学習の場として活用されている。
 - 「テーマ1」では、一五年戦争について、学問・思想への弾圧、日本人の反戦運動、戦争責任など、詳しく取り上げている。
 - 「テーマ2」は現代の戦争がテーマ。2つの戦争と戦争犯罪、植民地の独立と冷戦、兵器の開発、現代の地域紛争の展示。
 - 「テーマ3」は平和創造を求めた展示室。
 - じっくり見ると1日必要なほどの貴重な資料が、わかりやすく展示されていた。
 - 見学していると学生のボランティアガイドが説明してくれたのも良かった。
 - 幅広い観点で展示されており、随所に音声ガイドや椅子もある。
 - 戦場で散った画学生の遺作や遺品を展示した「無言館」や、書籍・雑誌・DVD等、平和に関する豊富な資料が揃った「国際平和メディア資料室」もあり、充実している。
- ◇ 開設20周年記念「放射能と人類の未来」が開催されていた。